

研修Ⅱ 分科会A高松 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
 ～思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実～
 「一人ひとりが感じたことを伝え合おう (ぼらの谷)」「6年」

司会者	高・新番丁小	教諭
提案者	高・下笠居小	教諭

1 提案の概要

(1) 高松支部国語部会の研究方針

①研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
 ～思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実～

②研究の視点 実生活に生きて働く言語力とは、基礎的・基本的言語力の高まりにより生み出される。言語活動に中でどのような力がつくのかを明らかにしながら授業を構想することが重要である。

(2) 授業実践 「一人ひとりが感じたことを伝え合おう (ぼらの谷)」「6年」

①主題に迫る読みの力をつけるために、一人ひとりが課題をもち、個の読みを交流することで、関係認識の力が深まる。

- ・大まかな物語の構成を捉え、物語が語りかけているものを探る学習の展開
- ・解決の見通しがもてるような課題設定「なぜ・どうして」ではなく、「どのように・どんな」といった言葉を使って課題をもたせる。

②主人公の人物像に迫るために、心情曲線を利用し、人物の行動と心情を読み取る。

- ・心情曲線を描かせる際に、文章表現を根拠にすることで、物語から外れず心情曲線を作り上げることができる。
- ・中心人物ドラガンと村人の心情を対比させることでより物語の展開が鮮明になる。その際、情景描写であるぼらの色の変化に注目させることで、人物の気持ちの変化を理解させやすくした。

※ワークショップ (第4場面の心情曲線を書いてみよう)

一宮小 教諭 ドラガンは職人として大切なことに気づくことができたことと捉えられるので上昇し、村人は淡いピンクのぼらになってしまったことで珍しさが失われたので少し下がる。

亀阜小 教諭 ドラガンはホットため息をつきました。という表現から上昇具合が少し緩やかになる。村人は、複雑な思いがあったので、ぐっとはあがらないが、緩やかな上昇を見せる。

③物語の構成をとらえるために、4コマ紙芝居にして紹介するという言語活動を取り入れる。

- ・書くコマの場面設定や、そのコマの中に何を書くべきかを考える必要が生まれる。それにより、物語全体の場面構成をより明確にもつことができる。

④診断的評価・形成的評価を単元の中で行う。

- ・次の言語活動を選定する材料の一つとなる。

2 成果

(1) 一人ひとりに課題を設定することで、自分の課題を解決しようと進んで物語を読もうとする姿が見られるようになった。

(2) 個の読みを交流することで、読みのイメージが広がり、創造豊かに読む楽しさを感じられるようになった。

(3) 4コマ紙芝居という言語活動を設定したことで、自分の読みを確かにしていくことを目的とした読みが常に展開されるようになった。

3 課題

(1) 授業時間内に児童を観察評価することができなかった。

(2) 見取りの視点を明確にし、どの学習活動で何を評価するのかをより明確にしなければならぬと感じた。

個を大切にし、確かな読みの力をつけるために
一人ひとりが感じたことを伝え合おう -ばらの谷-（6年）

1 「本単元・本時で育てたい力の明確化」の視点から

- ① 主題に迫る読みの力をつけるために、児童一人ひとりが読みの課題をもち、探したり、調べたり、比べたりして、言葉にこだわって課題を追究する活動を行い、個の読みを交流することにより、読みの違いや共通点を明らかにすることができ、関係認識の力が深まるだろう。
- ② 主人公の人物像に迫る読みの力をつけるために、他の登場人物と対比させながら心情曲線で表すことで、人物の行動と心情を結びつけながら読むことができ、人物像を比較しながら主人公の生き方を考えることができるだろう。…本時

2 「言語活動の充実」の視点から

物語の構成をとらえ、最も強く自分に語りかけてきたことを自分の言葉で表現する力をつけるために4コマ紙芝居にして紹介するという言語活動を取り入れることで、目的意識をもった読みができるだろう。

3 「個の読みを大切にしたい授業」の視点から

診断的評価、形成的評価に基づく個への支援を工夫することで一人ひとりの読みの力が高まり、個を生かす学習が展開できるだろう。

1 単元の目標

- 場面の構成をとらえ、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写から物語の主題をまとめることができる。
- 物語の構成や最も強く自分に語りかけてきたことを4コマ紙芝居に表現して紹介することができる。

2 単元の価値について

五月の文学単元は、二年から六年まで、物語の読解方法の習得にねらいを絞って系統的に位置づけられている。本単元は、五年五月教材「物語の構成に気をつけて読もう（世界でいちばんやかましい音）」での物語の基本的な構成をとらえ、場面の展開に即して人物の変化を読み取るという学習を受けて位置付いている。ここでは、物語の構成や人物の変容をとらえるという学習活動を通して登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、物語が自分に最も強く語りかけてきたこと（主題）について自分の考えをもつ学習を行う。

本教材「ばらの谷」は、時、場の設定が明確であり、話の展開が分かりやすい。反復表現が多く用いられ、児童は前の場面と比べながら話の展開を想像し、楽しく物語の世界に引き込まれていくであろう。そして、読み進めながら、その表現のもつおもしろさや効果を感じ取ることができるであろう。場面を象徴するように色をうまく取り入れたり登場人物を対比的に描いたりする作者の書きぶりから中心人物ドラガンのばらに対する熱い思いを感じ取り、職人として仕事に真摯に向かう姿勢に感銘を受けるであろう。また、追い求めているばらの美しさは人の力ではどうも及ばない自然本来の美しさであることも児童の心をとらえるだろう。このことと関連し、追い求めているものは、案外身近にあって普段見落としがちになっているのかもしれないと感じる児童もいるだろう。このようにこの教材は、多様な主題のとらえがあるのではないだろうか。それぞれがとらえた物語の主題を一つに集約していくのではなく、読みが深まった段階で児童が自分の生活経験と照らし合わせて自分なりに見つけ出したことを自信をもって表現させ、交流を図っていきたい。友だちと伝え合うことにより、さまざまな見方や考え、感じ方があることに気付かせ、イメージを広げることによって一人ひとりの考えがさらに深まるような学習を展開したい。

3 単元計画 (全8時間)

時	目標	主な学習活動	評価 (規準, 方法)
1	・ 4コマ紙芝居を作るために物語の概要をつかむ。	・ 教師が作った紙芝居を見て、4枚で物語を表してみようという意欲をもつ。 ・ 時間の流れを示す言葉を見つけ、7場面に分けながら、全文を通読する。 ・ 4枚の構成を考える。	・ 物語を4コマ紙芝居で表現するという目的意識をもって読んでいこうとしている。 (意欲・ノート)
2	・ 4枚の絵にした理由を話し合い、4枚の構成や何を伝えたいのかを考える。	・ 前の場面と何が変わったのかを考えて4枚の構成を考える。 ・ どの言葉に着目してその場面を選んだのかを説明する。 ・ 物語の何を伝えたいのかを話し合う。	・ 4枚の紙芝居には設定、展開、山場、結末の場面を描くことを理解できる。(読む・簡易紙芝居) ・ 場面に合う言葉を選ぶことができる。 (読む・簡易紙芝居)
3	・ 「ばらの谷」が語りかけているものが何かを探るために知りたいことを整理して学習課題をつくる。	・ 追究する価値のある学習課題とはどんなものかを話し合うことにより、自分の学習課題を決める。	・ この話が語りかけているものは何かを探るために、人物の行動や叙述、作品の題名に着目し、解決の見通しをもって学習課題にすることができる。(意欲・行動観察)
4 5	・ 自分の学習課題を探るために文章を読みまとめる。	・ 課題別グループで解決のための見通しを持ち、役割分担をする。 ・ 心情描写、情景描写、会話文や行動を表す言葉などに気をつけながら、課題解決に迫る。 ・ グループで一人ひとりが学んだことを交流し、表現物にまとめる。	・ 学びの手引きを手がかりに文章表現を抜き書きしながら、言葉を解釈したりイメージしたりしたことを書いたりできる。 (読む・ノート)
6 本時	・ 全体で話し合い、物語が語りかけているものを見つける。	・ グループ発表を聞き、ドラゴンと村の人を比べ、ドラゴンの人物像を考えることで主題を見つける。	・ ドラゴン、村の人のばらに対する思いを押さえ、心情曲線に表すことを通して自然の力の偉大さ、職人としての姿勢などこの話が語りかけているものを見つけてことができる。 (読む・話す・聞く・行動・ノート)
7	・ 「ばらの谷」4コマ紙芝居にして紹介する。	・ 物語の構成に気をつけ、一番強く感じたことがよく伝わるように4コマ紙芝居で表現する。 ・ 友だちのとらえた物語の構成や主題について感想を伝え合う。	・ 読み取った構成や主題を明確に表現するため、会話や行動、情景を表す言葉を手がかりに絵と文章でまとめることができる。 (書く・紙芝居)
8	・ 「ばらの谷」を読んで興味をもったことを追究するために読書をする。	・ 職人としての姿、自然の偉大さ、ばらについてなどもっと知りたいと思ったことについて読み、調べる。	・ 読んで感じたことを感想画にしたり、紙芝居にしたりしてまとめる。 (書く・表現物)

↓ 総合的な学習
将来の自分の職業を考えよう

5 指導の実際

(1) 主張点 1 ①「本単元・本時で育てたい力の明確化」 主題に迫る読みの力を付けるために

① 大まかに構成を理解した上で、物語が語りかけているものを探る学習へ

設定を正しくとらえ、場面の展開を追いながら簡単にあらすじにまとめるという活動の後、つまり、大まかに物語を理解できた上で学習課題を設定するように単元構成を工夫した。

時間の流れを示す言葉を見つけ、7場面に分けながら全文を通読する。



物語の構成（設定、展開、山場、結末）を確認し、「ばらの谷」にあてはめて考え、4枚の紙芝居に描くことのイメージをもつ。



4枚の構成は分かった。しかし、伝えたいことを入れた紙芝居にするためには…。

「ばらの谷」が語りかけているものが何かを探るためにもっとくわしく読む。

② 解決の見通しがもてるような課題設定

- 「どのように〜」「どんな〜」という言葉を使って想像豊かに読み取れるように

興味・関心や問題意識の違う様々な児童が、一つの教材に出会った時、そこから多様な読みが生まれる。その一人ひとりの読みを大切に扱い、物語の主題は何かを探るために、自分の読みの課題として成立させたいと考えた。

児童に学習課題を作ろうというと、「なぜ〜」「どうして〜」とその理由を問うものが多く出される。物語を因果関係で読むのではなく、登場人物の心情や行動、場面についての描写をとらえられるように、「どのように〜」「どんな〜」という言葉を使って想像豊かに読み取れるようにした。

- 一人ひとりに読みの見通しをもたせるために

全員の読みの課題を持ち寄り、追究する、価値のある学習課題に高めるために話しあう。

(学習課題の分類・集約)



同じ課題を追究する児童がグループとなり、課題解決に向けての迫り方を話しあう。

一人一役を担うような役割分担を行う。



読みの見通しがもてた。さあ、問題を解決していくぞ。

一人学びで課題を追究する。

児童から出され、集約した学習課題

①	ばらの色によってドラゴンの気持ちがどう変わるのかをまとめよう	… 5名
②	あわいピンクのばらが一面にさいた様子を考えよう	… 3名
③	「ばらの谷」という題名にどんな意味があるのかを考えよう	… 5名
④	最初のばらをなぜ最後のばらにして登場させたのかを考えよう	… 4名
⑤	ドラゴンにとって本当のばらとはどんなものだろう	… 5名
⑥	村人とドラゴンのばらに対する思いを比べてみよう	… 3名

- 学習の見通しがもてるような学習スキルの提示

課題意識が連続、関連していけるように課題解決の見通しや方策がもてるように「学びの手引き」を作り、一人学びができるよう支援した。また、読みの方向性につかめない児童に対してはそれぞれの課題ごとにどのような視点で読むとよいかをヒントカードとして与えた。自らの力で学んだという充実感を得ることができるよう、個やグループの活動の様子をとらえながら、どの言葉にこだわらせるのか、どんなイメージをふくらませるのかなど、個に応じた支援を心がけた。

(2) 主張点 ② 「本単元・本時で育てたい力の明確化」 主人公の人物像に迫る読みの力を付けるために
人物を対比してとらえるための心情曲線

中心人物ドラガンの人物像に迫るために、村人との対比で読み取らせることが効果的であると考えた。その時に見る視点として、情景描写であるばらの色に着目させ、ばらの色の変化と人物の気持ちの変化、そして、ドラガンと村人の気持ちを比べながら読み取らせようと考えた。

「村人とドラガンのばらの花に対する思いを比べよう」というグループの課題は、まさにこの視点で物語をとらえたものであった。このグループは、気持ちの高揚を表す言葉、落胆を表す言葉を集めながら、心情曲線の上げ下げの根拠を示しながら両者の気持ちにずれが出ていることをとらえていった。そして、両者の人物像をドラガンは自分に厳しい性格、村人は状況によって態度を変える性格であるととらえ、ドラガンと村人ではばらを見る視点が全く違うことを読み取っていった。さらに、ドラガンが自分のばらに納得しなかったのは、もっといいばらが作れると思ったからだともまとめた。

しかし、心情曲線の最後、あわいピンクのばらが一面にさいた場面での両者の気持ちは叙述がなく、自分の想像で考えたので、みんなにも考えてほしいという願いをもっていた。

そこで、最後の場面の両者の気持ちを想像させ、ばらを追及し続けた職人としてのドラガンの姿勢や結末の一文との関係性からどのようになるのか、考えさせることとした。

その前に、心情曲線の中にそれぞれのグループが読み取ったキーワードを貼り、児童の発表が一つの物語の展開の中に集約できるように配慮した。

(3) 主張点 2 「言語活動の充実」の視点から 単元を貫く言語活動となるように

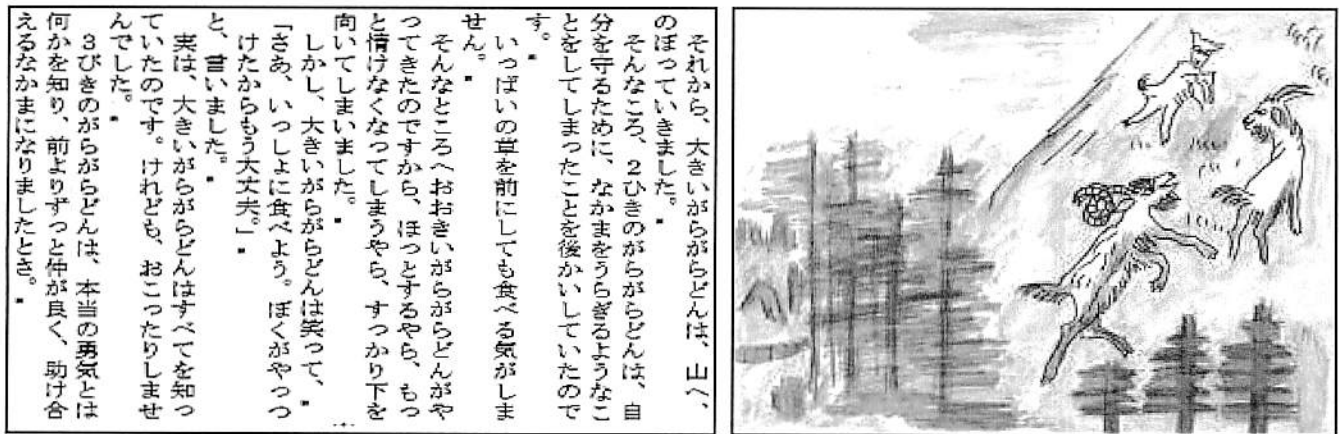
この単元で育てたい力は、物語の構成やあらすじをとらえ、そこから最も強く語りかけてきたこと（主題）をまとめることだと考える。中心となる人物の考えや心情、その変化を手がかりにしたり、題名や情景の変化との関連で考えたりすることが主題をとらえる手がかりであることを学んだ。

児童の実態調査の結果からも、登場人物の行動や場面の描写をとらえながら、物語の展開を押さえるという読みの力は是非とも付けたい。

児童に付けたい力、また、この単元で育てたい力を習得するための言語活動として、4コマ紙芝居を設定した。4コマにするためには、各コマの場面設定、そこにどんなドラガンや背景を描くのかを考えなければならない。書かれている内容を何度も読み直し、会話や行動、情景を読み取らなくては構成できない。この話が伝えているものを感じ取り、自分らしく、また、分かりやすく伝えられる紙芝居にしようという目的意識をもって主体的に取り組めるようにこの言語活動を位置づけた。児童自身ももっと詳しく読もうとする場を設定することで、より確かな読みに導けると考える。

単元を貫く言語活動となるように、導入場面で教師が別の物語『3びきのやぎのらがらどん』の4コマ紙芝居を見せ、場面が変わるところでコマが変わること、また、自分が感じ取ったことをうまく伝えられるような紙芝居を作るとおもしろそうだという意欲をもたせたい。

できあがった「ばらの谷」紙芝居を友だちと交流することで、友だちがとらえた物語の構成のとらえや主題についての考えも深めることができると考えた。



『3びきのやぎのらがらどん』結末の場面

(4) 主張点3 「個の読みを大切に授業」の視点から 診断的評価・形成的評価を大切に

① 診断的評価 (単元に入る前に)

本学級の児童は、男子14名、女子11名、計25名である。四月の「風切るつばさ」の学習においては、ほとんどの児童は一読して話の展開をつかむことができなかった。物語の構成をとらえること、人物の変化を心情や行動から読み取ることを中心に学習を進めてきた。

この単元の学習に入る前、四年で学習した「ごんぎつね」を使い、読みの力を図る実態調査を行った。

「ごんぎつね」を読んで答えて

(名前)

① 次の場面のごんの気持ちを考えて書きましょう。

● 二三日ぶり続いた雨が上がった時

● 村の裏側で兵十のおっかあのお墓を見た時

② 次の場面の兵十とごんの気持ちを書きましょう。

「ふー」

兵十は立ち上がって、なやにかけた火なわじょうを取って、火袋を握りました。

そして、足音をしのげば、近まで、今、戸口を出ようとするごんぞ、ど、うちました。ごんは、ばたりとたおれました。

場面の変化をたどって、○したすらをしたい気持ち

○後悔の気持ちがきちんと入っているか

ごんの気持ちの変化をきちんととらえているか

兵十

ごん

兵十が「ふー」と言ったとき、ごんは「ごんぞ、ど、うちました。」とつぶやいた。ごんは、兵十の足音を聞いて、戸口を出ようとした。兵十は、ごんの手を握り、ごんを助けた。ごんは、兵十の足音を聞いて、戸口を出ようとした。兵十は、ごんの手を握り、ごんを助けた。

※音いけむりの場面と混同していないかを見る。

くりや松たけを来る日も来る日も持っていたごんの気持ちを書きましょう。

いたすらにうなみをめすんだ事実だけでなく、いわしを放り込んだとき、いわしを盗んだ犯人として兵十が間違われてしまった事実に対する後悔や謝罪の気持ちが入っているかを見る。

・場面の展開に沿って登場人物の気持ちの変化を読み取れているのか。

行動や場面の描写から心情の変化を正確に読み取っている	行動や場面の描写から行動までは読み取れている(心情は読めていない)	深く読み取ろうとしない(文中の言葉で答えるだけ)	読み取れていない
7名	14名	2名	2名

・人物を関係性でとらえることができているのか。

その場面での人物の関係性をきちんととらえている	結末の関係性と混同し、きちんととらえられていない	読みが浅く、気持ちを読み間違っている
15名	6名	4名

・人物の行動と内面との関係をとらえることができるのか。

原因となる事柄を正しく挙げて気持ちを考えることができる	行動から気持ちを考えることはできているが主観的な読みが中心である	抽象的な表現で行動にもとづく気持ちを表現している	読み取れていない
3名	15名	2名	5名

この結果から、行動や場面の描写から登場人物の心情を正しく読み取ることができていないという実態が浮き彫りとなった。物語の展開を大まかにとらえることはできるが豊かなイメージを描きながら想像的に文章を読み味わえていないように感じる。もっと文中の叙述に着目させながら、登場人物の相互関係や人物像、その役割をとらえ、内面にある深い心情まで読み取らせたいと考えた。

・物語の学習は好きか。

好きである	どちらかと言えば好きである	どちらかと言えば苦手である	苦手である
8名	10名	6名	1名

・物語の本を読むのは好きか。

好きである	どちらかと言えば好きである	どちらかと言えば苦手である	苦手である
14名	5名	4名	2名

・感想を伝え合う学習は好きか。

好きである	どちらかと言えば好きである	どちらかと言えば苦手である	苦手である
5名	7名	5名	8名

この結果から、物語に対する抵抗感はあまり感じていないことが分かった。これは、読書傾向からして、物語を好んで読んでいるという実態に支えられているようだ。

しかし、友だちと感想を伝え合う学習に対しては、抵抗を感じている。経験の少なさから、自信をもって友だちに自分の考えを伝えられないという消極的な面が見られたのだと感じる。物語を主体的に読み、読み取ったことを伝え合う楽しさを味わえる学習を構成していきたいと考えた。

② 診断的評価 (単元に入って)

初発の感想から

ドラゴン	ばら	村人	興味	読み
	あわいピンク〜面			×
1年ごとにいろいろな花を咲かせる…すごい いろいろな色に咲かせたのがすごい		…すばらしい	なぜドラゴンは満足しない	異分で色を変え…各人
	色が変わっていくばら		勘違いをしている？ドラゴン	×
マイナス思考 色を変えたドラゴン…すごい			これがばらの花…元に戻って良かった	○
誉められると色を変える…不思議			最後に倒れた後、改めてばらが好き	
どんどん色を変えた 自分のばらが思い通りにいかない		爽い雨が降りかかる	倒れたドラゴン はじめのピンクのばらに戻って良	△
もとの色よりいい色にしようとした…だめ			もとの色にはかなわない	
色を変えたドラゴン…不思議 ばらを切ったドラゴン…いや	青いばら…うわさが国中をめぐる	見に来る行列		
	青の中にピンクのばら…すごい	×		
きれいなのに次々変えてしまう	ばら…なぜ感動？		咲き誇るばらに満足しない…へん 今までのばらはなぜ本当のばらではないのか	○
自分の納得のいく色にたどり着けない…嫌な思い	娘たちがみとれるばら		ドラゴンの気持ちを分かってあげられるのか	
ばらのことを本当に大切にしている…ばらが好きだから		すごく誉め	ドラゴンの思考力がすごい	○ 村人はドラゴンをどう思う？
仕事の大切さを知って良かった	あわいピンク…よかった		「これがばらの花なのか…」気付いて良かった	○ A
倒れたドラゴン…不思議 ばらの声は聞こえなかったのか	青の中のピンクのばら 最後のピンク…不思議		「これまで私は何をしてきたのだらう…」 摘み取ったばらを人にあげればいいのか	×
ばらき切るのが予想外 なぜ、最初のピンクをきいたと思わないのか 他の花にまねのできない色がいい	青いばら…一面？ピンクは		最初の花が一瞥きれいと思ったのが良かった	○
ばらの色を変えてまで魅力を感じた		園を超えて	なに愛えられるのか	「これまで私は何を…」
いろんな花を作っても満足しない…不思議			ばらを見るために遊ぶ村人…不思議	
ばらを思い通りに染める技…すごい人の力以上			ドラゴンは短気	

③ 形成的評価

4コマ紙芝居に入りたい言葉

ドラゴンの様子	ばらの様子	村人の様子	行動	会話	情景
		見に来る人に着目	×	×	○
行動…着目無し	色も香りも格別				
	まげゆい見事なさきよう	なし	×	×	◎
行動…着目無し	色の変化	村人の声…具体ではない	×	×	○ 場面…×
心情…行動に反応	色の変化	村人の声…態度	○	◎	○
	色に反応	なし	×	×	○
ドラゴンの行動中心	色の変化	なし	○	×	○
心情中心	色の変化	存在は認める	×	×	○ 場面…×
ドラゴンの行動中心	色の変化	わざわい…うわさし合った	○	○	○
行動に着目無し	色の変化	なし	×	×	◎
心情に反応	色の特徴に反応	賞賛する村人	×	○	△
なし	色の変化	存在は認める	×	×	○
	色の変化	なし	×	×	×
心情…行動に反応		むらは潤う…行列	○	◎	◎
行動に着目	色の変化	言葉を使わず話しかけるむらびと	◎	×	◎
行動…心情に反応	色の変化、特徴までとらえる	行動にまで着目	◎	○	○
行動着目…△	色の変化と場面の呼応…十分ではない。	なし	△	×	×
行動…気持の変化…◎	色の変化		○	×	○
心情…態度	色の変化	△	×	×	○
行動…気持の変化…◎	細かい変化にも着目	行動に着目	○	◎	◎
気持の変化に着目	色の変化	ほめそやす行動に着目	×	○	△
ドラゴンの行動中心					
行動中心	色の変化	村人の声に着目	◎	×	◎
心情中心	他にまねできない色	なし	○	○	◎
行動…気持の変化…◎	色の変化	△	○	×	×

④ 形成的評価 (グループ発表を聞いて)

	ドラガンの気持ちの変化	ドラゴンにとって本当のばらとは	ばらの谷という題にした理由 香りも書いてある	あわいピンクのばらの様子	村人とドラゴン	最初のばらをなぜ最後に
	心情曲線…分かりやすい	納得のいく花が本当のばら	ばら…一面に咲いた本当のばら谷…谷間の村に咲いた	すきとおるようなきれいなばら	ドラゴン…最後までとても上がっている	意見がよく似ている
	最後は上がった	場面を追って	谷…山と山との間			
	自分たちと似ている	自分たちと似ている	ばら, 谷…合体		心情曲線を使って	ピンクのばらが大切
A	最後…上がる	納得のいく花が本当のばら	山と山の間の谷に	みずみずしくうるおっている	ばらを見る視点がちがう	最初のばらが最後に光って見えた
				一面	○	感動 光って見えた
	気持ちをくわしく	みんなが満足できる色		つやがいい		ピンクのばらの大切さが分かった
				ふわっと漂うつやが強い		朝つゆをうけ、本当のばらを見つけた
		本当のばらがピンクのばら…似ている	最後の一面…自分	辺り一面のばらの様子	ドラガンの気持ち似ている	最後のところ
	白…くらい気持ち		あわいピンクが一面			
	最初のピンク	ばらのなりたい色を付ける	谷を解明している	つや, 大きさ, 香り		きれい→好きよく分かった

⑤ 形成的評価 (本時の学習を終えて)

- 高い山に囲まれた風景を見ながら、ドラゴンにはばらを見たかっただと思います。私は、最後に、ドラゴンが見つけたあわいピンクのばらは、本当のばらを見つけたと思ったから気に入ったんだと思います。(A)
- 一番最初の文と一番最後の文がキーポイントになっていたことが分かりました。最後の方にドラガンの気持ちがたくさん出ていることが分かりました。最初のばらと最後のばらは違うとぼくは思っていました。しかし、みんなの意見を聞いてまた迷いました。これからもこの課題について考えていきたいです。
- 今日、ドラガンの気持ちについて、みんなで話しあいました。村人の気持ちも調べてなかったのですが、よく分かりました。最後の先生が出したのも紙芝居に入れたいです。ドラゴンは、仕事なので自分に厳しかったことが分かりました。
- ドラゴンのさかせたばらと昔からさいていたばらと最後のばらは違うと思いましたが、でも、みんながいろいろな意見を出して全部、答えに思えました。私の意見だけではなく、みんなの意見も聞いてみるとおもしろいですね。
- ぼくは、最後のばらは、最初のばらと同じだと思えます。理由は、最初のばらは、ドラゴンが手を加えていなかったのだから最後のばらといっしょだと思えました。手を加える前のばらが一番だと思えました。

⑥ 個の児童をとらえて

A児

診断的評価①「ごんぎつね」より

- ・ 場面の変化をとらえて、心情を正確に読めていない。
- ・ 人物の行動を正確にとらえられず、なんとなく話をつかんでいる。

診断的評価②「ばらの谷」初発の感想より

- ・ ドラゴンが「これがばらの花なのか…」と気付いてよかった。
- ・ 仕事の大切さが分かってよかった。

形成的評価①「ばらの谷」4コマ紙芝居の場面ごとに取り上げたい言葉の抽出

- ・ 行動に着目する言葉を選んでいない。会話文、情景を表す言葉も不十分。
- ・ 物語の構成を色の変化に呼応してとらえられていない。

形成的評価②「ばらの谷」一人学びから

- ・ ばらについて…昔からさいているあわいピンクのばら
みごとなさきよう

話の概要を感覚的にとらえることはできる。しかし、行動から心情をきちんと読み取れていない。

言葉を選ぶ力が十分ついていない。心情に迫るために、表現にもっと着目させたい。

- ・ 谷について …山と山の間の深くくぼんでいるところ

表現から選ぶようとしている。しかし、その意味を調べることにとどまっている。



ヒントカード ばらとは、昔からさいているあわいピンクのばらだが、これは、ドラガンのばらのことだろうか。一面にさいているばらの様子を文章の表現から考えてみよう。



形成的評価③ 2回目の一人学びから

- ・ 昔からさいているばらと一面にさいているばらを比べ、叙述に照らし合わせて読んでいる。本当の色のばらを見つけたから「ばら」という言葉を題名に入れた。本当のばらを見つけて、谷一面にさいているばらを「ばらの谷」と読んだ。もっと家で調べたい。

形成的評価④他のグループ発表を聞いて

- ・ 表現からイメージが広がっている。あわいピンクのばらが自分の中で描くことができている。

形成的評価⑤本時の学習を終えて

情景描写、行動からドラガンの心情を想像豊かに読むことができている。

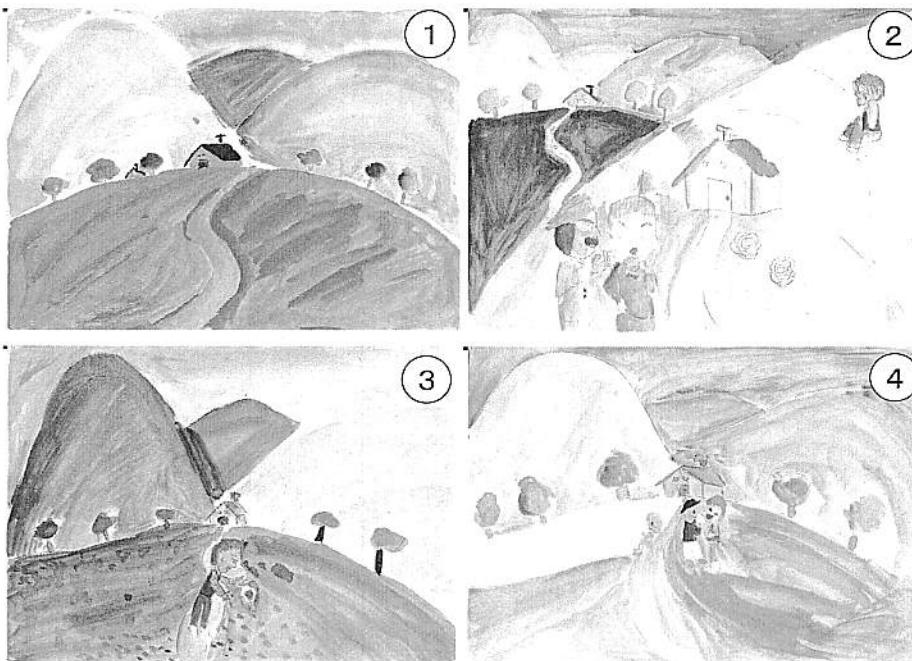
6 成果と課題

(1) 成果

- ・ 言葉にこだわって自分の課題解決のために読み進めようとする意欲的な児童の姿が見られるようになった。
- ・ 読みを交流することで、読みのイメージが広がり、想像豊かに読む楽しさを感じられるようになってきた。
- ・ 本時に心情曲線という言語活動を設定したことで、視覚に訴えるものとして対比的に人物をとらえることができ、主題に迫ることができてきた。
- ・ 4コマ紙芝居に表現して紹介するという言語活動を設定したことで、自分の読みを確かにしていくことを目的とした読みが常に展開させることとなった。
- ・ 個を大切に学習となるよう評価を生かしながら、支援を考えていくことで子どもたちが生き生きと自信をもって学習することができた。

(2) 課題

- ・ 授業時間内に児童を観察評価していくことが十分できなかった。見取りの視点を明確にし、どこでどう評価していくのかを明らかにしておく必要があると感じた。



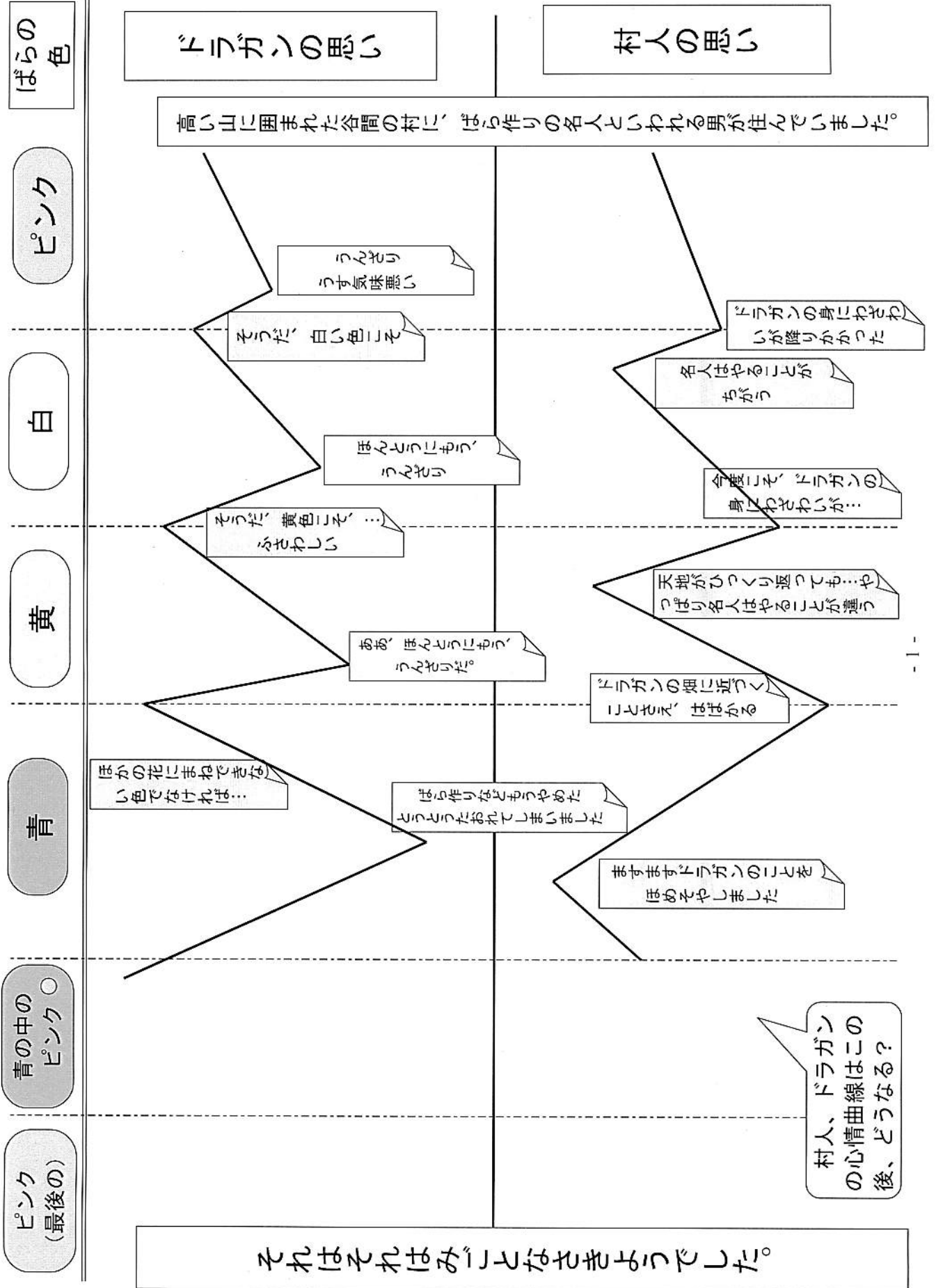
④場面

次の年、ドラガンの畑ではあわいピンクのばらが一面にさきました。しかし、反対側には白いばらと青いばらと黄色いばらがさいています。村人がどうしてもさかせてほしいとドラガンに話したのでした。ドラガンは、しぶしぶさかせてみました。ところが、さかせてみるとおりに咲いたので、ドラガンはとても満足しました。

村人たちは、白いばらを雲、青いばらを空、黄色いばらを月と見立てました。そして、その3つのばらがさいている場所を「空の花園」と呼びました。

そして、ドラガンと村人たちはずっと仲良しでこの空の花園を大切にしました。もちろん、あわいピンクのばらも大切にしました。

ドラゴンと村人のばらの色を比べてみよう



村人、ドラゴン
の心情曲線はこの
後、どうなる？